

会長退任にあたり



元 トヨタ自動車（株）
二橋 岩雄

1971年4月に発足した日本品質管理学会が50周年を迎えた本年、第50年度の会長を担うことが出来たことは大変名誉なことであり身の引き締まる思いでありました。この度退任にあたり学会活動に対する私の思いと後任の皆様へ託しておきたいことを申し述べておきます。

戦後先人たちの努力で築き上げた高品質な日本製品とそれを支える品質管理の能力は大変優れていましたが、近年新たな社会課題や世界の技術進化に埋もれて色あせつつあるのではないかと危惧しています。日本を再び世界をリードする品質立国として再生するためには、次世代を担う若い人たちに品質の大切さとそれを獲得するための技術力を学び継承してもらわねばなりません。また品質の定義を製品の出来栄へと狭義に捉えることなく、顧客価値を創造するという考えに再定義された今日、製造業のみならず幅広い分野に品質管理の考え方や活動を普及していく必要があります。

こうした問題意識を背景に50周年を契機に学会のミッション（原点となる存在意義）とビジョン（目指すゴール）を明確にし、3ヵ年の中計として落とし込み具体的な行動に着手しました。まだアクションは緒に就いたばかりですが作成に至った意図をくみ取り、今後実現に向けて活動を加速してもらいたいと願っています。

学会活動を取り巻く環境には大変厳しいものがあ

ります。活動の魅力を高めて会員数の減少に歯止めをかける必要があります。学会活動の成果が日本の産業競争力の強化に繋がらなければならないこと、学会は営利を求める活動からではなく、会員の提供する会費と有志で成り立つことからして、今後産学連携を更に強化していかなければなりません。産業界には品質経営、品質改善、品質教育等、様々な課題やニーズがあります。1例を挙げれば近年急速に進化を遂げたAIを取り入れ、IoTを活用していく動向は勢いを増しています。ハードに加えてソフトの品質をどう構築していくかが大きなテーマとなるでしょう。こうした分野で産学連携による研究会を強化するなどが考えられます。

学会の課題は山積しています。日本品質を支える基盤は品質を理解した人材と組織能力にあります。そのためには会員の学びに資する活動を強化し、学会正会員の減少に歯止めをかけること、魅力ある活動を推進し会員の若返りを進めることなども喫緊の重要課題であると思います。

品質管理学会が50周年という節目を越えて、新たな日本の産業の発展に貢献する活動成果を出し続けられるか、今後も大いなる関心をもって見守っていきます。会長在任1年間、ご指導ご支援をいただきました皆様に紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。